

論文のタイトルを16ptで

English Title in 12 Point Letters

防災太郎¹・文化花子²

Taro Bosai and Hanako Bunka

¹〇〇大学教授 理工学部都市システム工学科 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1)

Professor, 〇〇 University, Dept. of Civil Engineering

²△△株式会社 技術開発部 (〒603-8341 京都市北区小松原北町58)

Chief Engineer, △△ Corporation

The journal will be produced by direct photo-offset printing. You must prepare your manuscript carefully according to this instruction. Please use only A4 size paper. The manuscript must be typed on the good quality white paper within the type area. For A4 paper, top and bottom margins are 20mm and 25mm respectively. Both left and right margins are 20mm. The use of high quality printer is recommended. For main text, please use 10 point MS Micho and Times Roman fonts, if is available. The line spacing must be single. Abstract should not exceed 6 lines (approximately 120 words) and should be followed by 3 or 4 key words.

Key Words : times, italic, 10pt, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line

1. ページレイアウト

A4用紙を用い、左右と上の余白を20mm、下の余白を25mmとしてください。和文はMS明朝、英数字はTimes Romanとし、10ptフォントで48文字×48行を基本とします。ページ数は4～8の偶数ページとします。

(1) タイトル部分のレイアウトとフォント

1ページ目のみ、左上に「歴史都市防災論文集Vol. 4 (2010年7月)」と書いてください。タイトルは論文集の名称の下に2行空け、センタリングします。以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル：ゴシック体 16 pt フォント

(1行のスペース)

英文タイトル：Times Roman 12pt フォントの大文字

(1行のスペース)

著者名：明朝体 12 pt フォント

著者の英文表示：Times Roman 12pt フォント

(1行のスペース)

著者所属：明朝体 9 pt フォントおよび英文表記Times Roman 9pt フォント

著者と所属とは肩付き数字で対応づけ、上記のように並べて下さい。ここまではセンタリングです。

(1行のスペース)

英文概要：Times Roman 10pt フォント、6行以内。120ワード程度。左寄せ両端揃え。

(1行のスペース)

英文キーワード：Times Romanイタリック 10pt フォント、3～4ワード。左寄せ両端揃え。Key Wordsとい

う文字だけボールド（太字）で。

（2行のスペース）

キーワードの下に2行空けてから、本文を開始してください。

(2) 本文部分のレイアウトとフォント

本文も1段組です。本文には明朝体 10 pt フォント（英数字はTimes Roman）を用いて下さい。句読点は「、」と「。」を使用してください。

(3) フッタ

すべてのページの下辺中央にフッタ機能を使ってページを入れます。ページ番号は暫定的に論文表紙を第1ページとしてつけてください。

2. 見出し

(1) 見出しのレベル

第1レベルの見出し（章）は11ptのゴシック体とし、2. などの全角数字とピリオドに続けて書きます。また、見出しの上下にスペースを空けます。上を1行以上、下を1行空けて下さい。

(2) 第2レベルの見出し

第2レベルの見出し（節）は10ptのゴシック体で、(4) などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

a) 第3レベルの見出し

第3レベルの見出し（項）は10ptのゴシック体で、片括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。第3レベルより下位の見出しはなるべく用いないで下さい。

3. 数式および数学記号

数式や数学記号は次の式 (1) のように本文と独立している場合でも、 $\alpha(x)$ のように文章の中に出てくる場合でも、同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。

$$y = \int_0^t \sin x dx \quad (1)$$

表1 表のキャプションは表の上に置く

要素	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

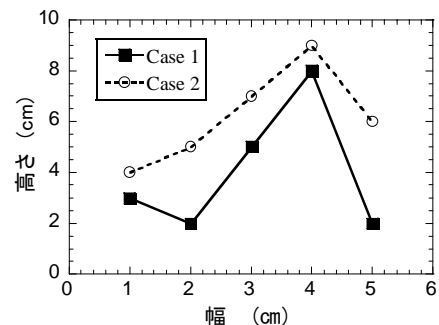


図1 図のキャプションは図の下に置く

4. 図表

(1) 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。図表と文章本体との間には1～2行程度の空白を空けて区別を明確にしてください。

(2) 図表中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください。特にキャプションの大きさ(9pt)より小さくならないようにして下さい。

(2) カラー

白黒でわかりにくい図はカラーを使っていただいても結構です。ただし、印刷の都合上、色が多少変わる場合がありますのでご注意ください。

5. 英文で書く場合

論文を英文で書く場合には、和文タイトル、著者名および所属の和文表記は省略していただいても結構です。使用フォントは、ゴシックと書かれている部分をArialに、明朝と書かれている部分をTimes Romanにしてください。詳しくは、英文用テンプレートをご覧ください。

6. 参考文献の引用とリスト

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所でのように¹⁾上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリスト(文字の大きさは9pt)として示し、脚注にはしないでください。

謝辞:「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンをゴシック体で書き、その直後から文章を書き出して下さい。

参考文献

- 1) 日本道路協会：道路橋示方書・同解説，V耐震設計編，2002.
- 2) Timoshenko, S. P., Young, D. H. and Weaver, Jr., W. (谷口修, 田村章義共訳)：工業振動学，コロナ社，1977.
- 3) 小坪清真：入門建設振動学，森北出版，pp. 156-157，1996.
- 4) 伊津野和行・袴田文雄・中村一平：機能分離型支承装置の動特性と設計手法に関する研究，土木学会論文集，No. 654/I-52，pp.233-244，2000.
- 3) Mokha, A., Constantinou, M. and Reinhorn, A.: Teflon bearings in base isolation. I: Testing, *Journal of Structural Engineering*, ASCE, Vol.116, No.2, pp.438-454, 1990.